



# 子育てチャンネル

## タンザニアでみた子育て

今年の4月、夫の故郷のタンザニアに里帰りした。実家にいた間は夫の妹たちが交代で2歳の息子の面倒をみてくれたのでだいぶ楽をさせてもらったのだが、学生でまだ子どもがいない未っ子の妹さんも大変に子守が上手だった。

タンザニアでは、自分の子どもや年下の兄弟がいる、いないに関わらず、大抵子どもが面倒を見ることに慣れている人が多い。それだけ幼いころから自分より小さい子の面倒をみるのが当然の環境におかれてきたのだろう。

私が初めてアフリカを訪れたのは大学生の時。ホームステイ先でも、旅先でもまだまだ小さい（と思える）子どもが、さらに幼い妹、弟をおんぶしたり、あやしている姿に感心したので覚えておきたい。

日本でも前の時代、ある

いは兄弟が多い家庭では、今でも当然の風景なのかもしれない。しかし私はいとうと、長女で2人の妹がいたが、腰が据わっていない赤ちゃんなんて、自分の子どもが産まれるまでどう触っていいかわからなかったくらいだ。だから、自分のこれまでの環境からみたら

「まだかわいがるれる対象の小さな子ども」が、甘やかされる以上に母親を助けている姿は印象的だった。地域・親戚など、家族以外の人も日常的な関わりが強いタンザニアでは、みんな子育てをしている印象が強い。

タンザニアでは、自分も親なのだから、いつでもど



こでも誰よりも、自分で子供の面倒をみなければいけない、という切迫感はない。子どもが悪いことをしていたら誰でも注意したり叱るし、気軽に近所の人に子守を頼んだりする。

間祖父母の家で生活する子どもが珍しくないこと。家庭的な事情以外からでも、子育てを終えた祖父母が「孫と暮らしたい」「孫の面倒をみたい」と積極的に子どもを預かるケースも少なくない。

いづれにしても2、3歳ごろから3、4年間、もしくは学生の数年間とか、割と長い期間を祖父母の家

で生活する。たいてい両者の家は数キロ圏内であって、子どもの親は頻繁に実家に足を運んだり、子どもが自ら親のところ遊びに行ったりして（？）この間も親子の関わりが全く途絶えるわけではない。

私の夫は、若いころから「あなたの最初の子どもは母さんと一緒に暮らしたいね」と言われていたらしい。今の私には息子のいない生活は考えられない。なので、それは丁寧にお断りさせていたのだが、親としてはある程度大きくなったら、ぜひ一度存分にタンザニアを体験させたいと思う。彼のもう一方のルーツをまつすぐに深く感じてもらいたいし、何より誇りに思ってもらいたい。

タンザニアの人たちのように、パパのように、たくましく成長してもらいたい。

鈴木 沙央里